

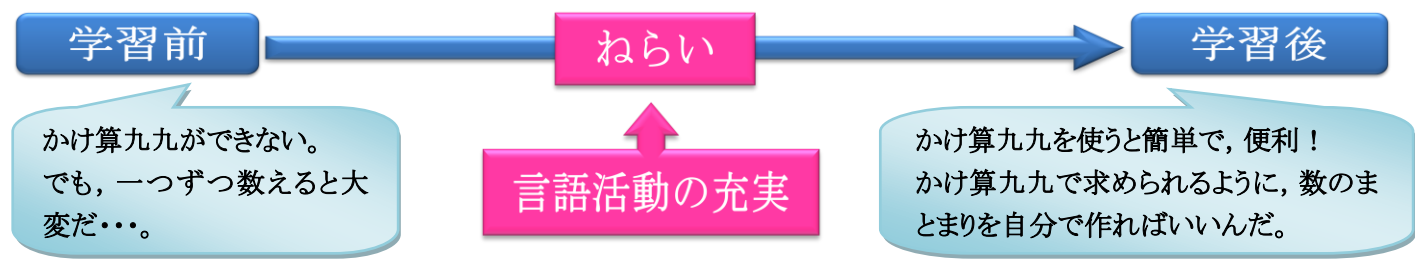
1 「といてみたい」「考えてみたい」～意欲を高める学習課題の提示

<テーマ> 児童の主体性・意欲を引き出す課題設定の工夫（東松島市立大塩小学校）

【ねらいと特色】 2年「九九をつくろう」

本時では、いくつかの数を数える場面で乗法の考えを総合的に活用して問題を解決し、記号×を用いた式の簡潔性、明瞭性を実感させることが学習のねらいである。式の意味理解の深化を図るには、具体的な場面に即して乗法の式を立てるとともに、図や具体物を活用しながら式と関連させて説明させる必要がある。そのために、授業の導入で、目的意識をしっかりとらせ「やってみたい」「解決してみたい」という主体性、意欲を引き出すように課題を設定した。

【実践の概要】



○ つかむ・見通す場面で、ばらばらに並んだキャラメルとまとまって並んだキャラメルの絵を提示し、どちらが正確に数えられるかを考えさせ、本時の課題解決への見通しをもたせた。

T 「あ」と「い」のキャラメルの数は同じですが、ぱっと見て何個か分かりますか？
 C₁ 分かる！25個です。
 T どうやって25個って分かったのですか？
 C₂ かけ算の式にある5×5をしました。
 T では、「あ」はどうですか？
 C₃ ……かたまりを作れない……

T 分かるかな？
 できるかな？
 C かんたん！
 T かんたんそう？
 C はい！（口々に）
 T じゃじゃーん（全部開く）
 C えー！（口々に）
 C ちゅうとはんぱ
 C あー！分かった！
 C 分かったー！（口々に）
 C ひとつのまとまりができない！
 C だけど分かった！



○ 学習問題の提示では、チョコレートの問題図を、端から少しずつめくって提示することで、児童に学びの対象をじっくりと見つめさせるとともに興味・関心を高めた。これにより、既習の「いくつかのいくつ分」では、解決できないことに気付かせ、課題が焦点化された。

○ 導入で、5×5のかけ算九九で答えを出せる問題と出せない問題を意図的に取り上げたことで、本時の問題場面で“ずれ”を生じさせることができ、自ら学ぶ意欲を高めることができた。